

6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島と並んで温暖な地方です。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内湾沿岸は海岸性の気候で比較的暖かくなります。

雨量は地域により差はありますが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少なくなります。特に内湾沿岸は本県でも雨量の少ない地域です。

平成17年の天候の特徴

1月から4月にかけて高気圧と低気圧が交互に通過し寒暖の変動の大きな状態が続きました。5月の中旬はオホーツク海高気圧の影響で気温が低くなり、6月から7月は梅雨前線が本州南岸に停滞し曇りや雨の日が多くなりました。8月から10月は高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多くなりましたが、11月中旬頃から日本付近に寒気が南下しやすくなり、12月は気温がかなり低くなりました。

年平均気温は銚子と千葉でかなり低くなりました。年降水量は北部は平年並、南部では少なくなりました。

平成18年の天候の特徴

1月上旬は強い冬型の気圧配置が断続的にあられ気温が低く、中旬以降は高気圧と低気圧が交互に通過し寒暖の変動の大きな状態が続きました。4月は低気圧や前線の影響で天気がぐずつき、5月は前線が本州南岸に停滞し曇りや雨の日が多く、6月から7月にかけても日照時間の少ない状況が続きました。8月以降は天気が周期的に変わり、10月と12月には発達した低気圧の通過による大雨がありました。

年平均気温は高く、年降水量はかなり多くなりました。

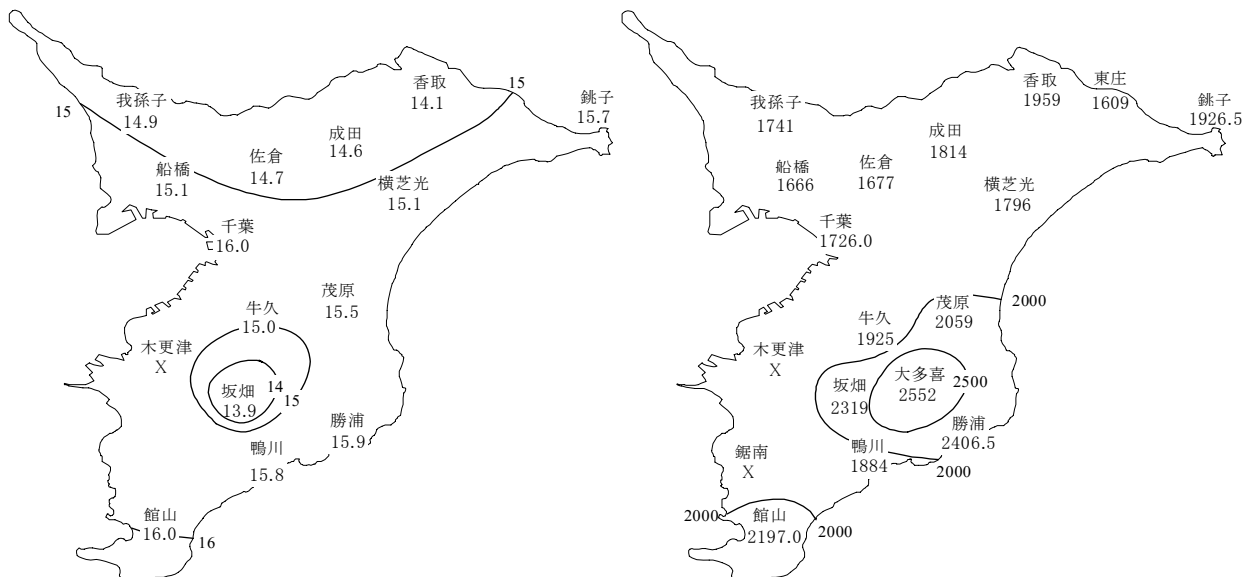
気象分布図

県内年間平均気温(°C)

県内年間降水量(mm)

2006年

2006年



注：木更津は移設し、統計を切断したため年統計値は欠測になりました。

鋸南は移設し統計は接続しますが、2月24日から7月12日まで観測休止のため

年統計値は欠測になりました。